

子どもたちに将来への希望を！ (株式会社アイ・コンサルティング)

取組の概要

小・中・高・大学校で「仕事とは何か」というテーマで出前授業活動を展開している。本業の仕事が、経営者や社会人相手に「仕事の本質」を伝える**プロフェッショナルだからこそ、この本質的なテーマで子どもたちと真正面から向き合い、その後のキャリア教育に大きなプラスの影響を生み出せる。**

該当するSDGs目標 (3つまで)



取組を始めた動機・課題

若者が将来に希望を持っていないという調査結果が多くみられる中、学校教育においてキャリア教育が施され、社会人と関わる機会もそれなりに作られているものの、「仕事とは何か?」「働くとはいったいどういうことなのか?」といった根本についての学びが不足していると感じたこと。

解決に向けた具体策と成果

上記課題に対し、普段は社会人に「仕事の本質」を伝える**プロフェッショナルが**、学校で出前授業を行い、子どもたちと直接対話をして、将来に希望を持ってもらう。

取組による定量的な効果

- ・ 2024年の出前授業開催回数**11回** (2024年11月30日時点)
- ・ 子どもたちの将来への希望が感じられる**熱い感想文多数**

取組のポイント

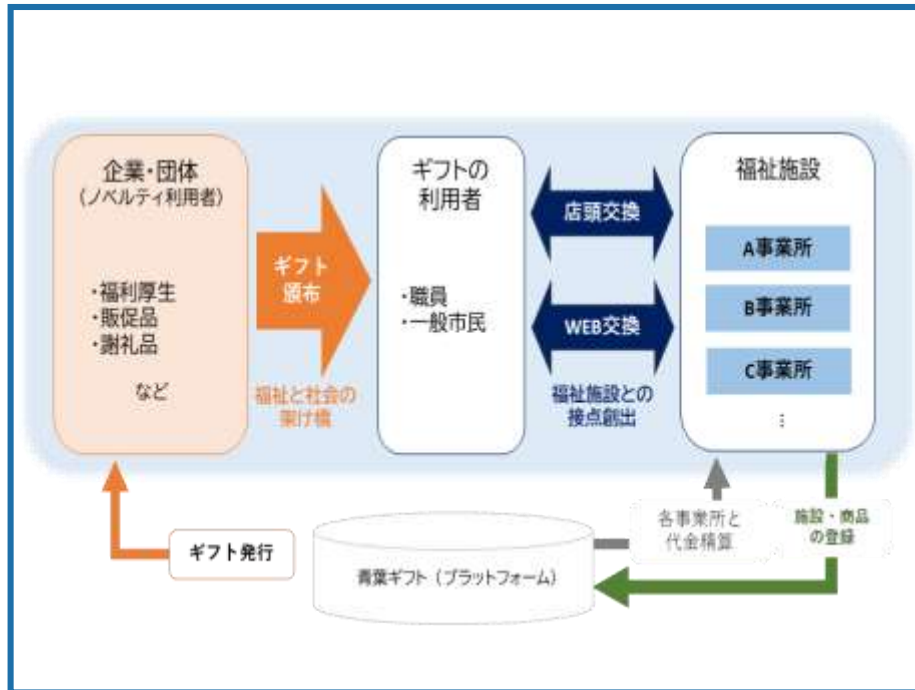
プロとして培った能力を活かして、社会課題に対して何が
できるか?という視点で真剣に考えたこと。

粗品や景品で、共生社会と社会貢献の輪を広げよう（株式会社青葉ギフト）

取組の概要

福祉商品に交換できるデジタルギフトのプラットフォームを開発。福祉商品の手作りの良さを維持しつつ、大量注文の受け入れを可能とした。ギフト利用者（一般市民）は、WEBもしくは店頭で、好きな商品を選ぶことができ、気軽に福祉商品を知るきっかけとなるよう工夫している。

該当するSDGs目標（3つまで）



取組を始めた動機・課題

会社員時代に社会貢献を担当した時、企業や一般の市民は社会貢献の意識はあるものの「限られた時間」「限られた人」が社会貢献を行っていること、一方の福祉施設は、企業等の大量注文が受けられないこと、バザー販売が中心で、縁のある方や会場の職員など顧客が限定的になりがちなこと、これらを課題と感じていた。

解決に向けた具体策と成果

「デジタル化」により、メール配布やWEBでの商品交換を可能としたほか、一つの商品を複数事業所に注文を振分ける等の機能を搭載し、大量注文の受け入れを可能とした。

取組による定量的な効果

鎌倉市・横浜市で福祉施設等の運用を2年間検証。
14000枚のギフト発行・80施設の登録・160の商品掲載

取組のポイント

デジタルギフトの特徴を活かしつつ、大量生産が困難などの課題に対応するため、福祉専用のシステムを開発！

繋がりで広がる農業の未来（株式会社あぐりどあ）

取組の概要

生産者と消費者が直接に畑で繋がる事で、生産者は理想の売り方を、消費者は安心安全を、地産地消も得られて、持ちつ持たれつの関係も築けます。生産者と消費者の間の価値観の隔たりの解消に繋がりと、食糧問題や環境問題を知るキッカケにもなり得ます。”伝わる”事が可能になります。

取組を始めた動機・課題

農作業の約半分が、収穫～出荷調整（洗浄、袋詰め、梱包）～出荷～販売、になります。環境循環型農業の作物の販路の確保も含めて売るのも大変です。生産者自身の出口を持つ事で継続と拡大が可能です。時間と人手が足りない中でも如何に効率良く売れるか？が動機です。

該当するSDGs目標 (3つまで)



生産者 新規登録はこちら

消費者 新規登録はこちら

農業生産者 さんの畑の野菜と
消費者 さんによる 直接の収穫購入 を繋げる
プラットフォームの マatchingサイト

解決に向けた具体策と成果

生産者の畑の野菜と、消費者による畑での直接の収穫購入を繋げる、プラットフォームのマッチングサイトのシステムにより、生産者と消費者が繋がれる様になる。

取組による定量的な効果

キャベツの収穫、搬出、出荷、の73%の30%（想定数値）
＝ 21.9%の時間とお金を手に入れることができます。

取組のポイント

団体の消費者側の、学校（幼稚園、保育園）、学習塾、飲食店、インバウンド、自治体、も畑でイベントを行える。

社会課題解決が企業を成長させる「SDGsボードゲーム・神奈川県版」 (株式会社アレックスプランニング)

取組の概要

神奈川県内の企業や団体が社会課題を解決し、企業の成長につなげている具体的な事例をもとに「SDGsボードゲーム・神奈川県版」を開発した。企業や商工会議所などのSDGsセミナーとして採用されている。中小企業のSDGs推進のほかにも、企業間連携、新規ビジネス検討、チームビルディングのツールとして活用されている。

該当するSDGs目標 (3つまで)



取組を始めた動機・課題

中小企業の経営者の皆さまから「SDGsに取り組みたいが何から始めればよいか分からない」、「社員向けの研修を検討しているがじっくりくるものがない」、「聴講という一方通行の研修では自分ゴトにならない」、「具体的な事例を紹介してくれるものがない」、「楽しく学べるものがない」という、各種のご相談をいただいていた。

解決に向けた具体策と成果

県内企業を直接訪問し、約100件の具体的な事例をイラストつきカードに反映した。チームメンバーで目標1～17のレベルアップさせるゲームを開発、企業研修に採用されている。

取組による定量的な効果

企業セミナー：12件
経済団体セミナー：8件

取組のポイント

本ゲームを活用したSDGsの「自分ゴト化」・「見える化」・「楽しみ方」

ダイバーシティ経営を加速する異文化メンタリングMILE（株式会社An-Nahal）

取組の概要

留学生とのメンタリングを通じ、組織におけるダイバーシティ推進の必要性理解と知識の獲得、またマネジメントスキルの向上を図ります。
高度外国人材の定着やキャリア形成にも寄与するプログラムとして成果が証明されています。

該当するSDGs目標 (3つまで)



取組を始めた動機・課題

世界競争力ランキングにおいて管理職の国際経験が最下位の日本で、**D&I**推進を自分ごととして考え行動に繋げるための「多様性の価値を理解する実体験」が重要です。
相互メンタリングという育成手法を活用し、外国人材をマネジメントできる管理職育成と留学生の日本でのキャリア形成の双方の課題解決のために取り組んでいます。

解決に向けた具体策と成果

日本人と留学生の相互メンタリングと全員参加型のワークショップを含んだ4ヶ月間のプログラム。第13回日本HRチャレンジ大賞奨励賞、HRアワード2024入賞。

取組による定量的な効果

インクルーシブな職場（チーム）がどんな状態であるか理解が深まった：96%

取組のポイント

外国人留学生との対話や多国籍環境でのワークショップを通じて「優しい原体験」の獲得を目指します。

プラごみバスターズ事業（NPO法人海の森・山の森事務局）

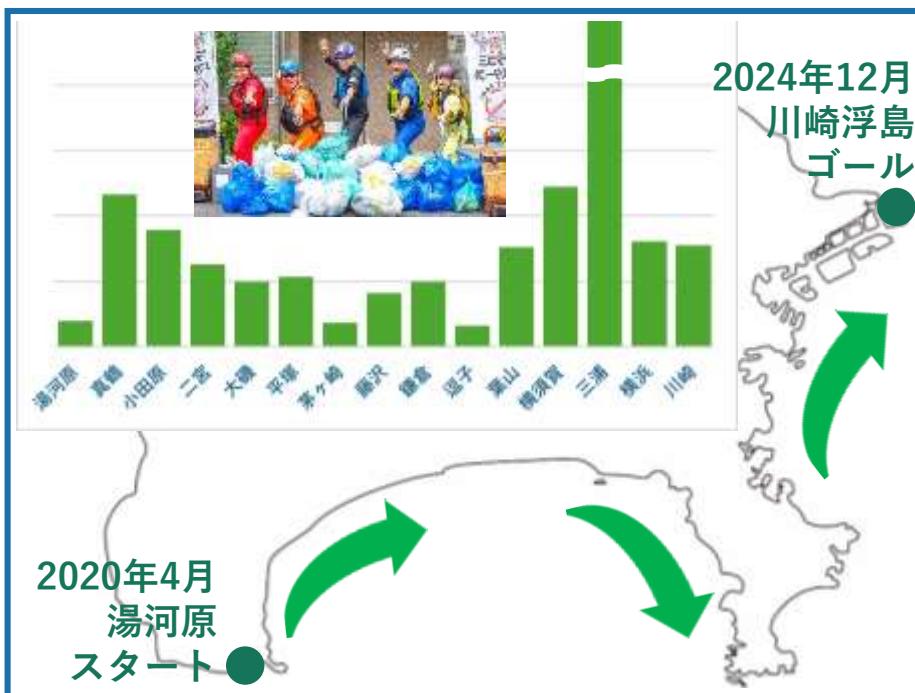
取組の概要

神奈川県海岸線およそ400kmを全て歩いてごみ拾い。
 2020年4月に湯河原出発。毎月一回一筆書きのように実施。
 およそ5年かけて、2024年12月多摩川河口にゴール。
 今後：収集したデータに基づき、エリアを集中して活動。
 データは公開し、広く活用してもらう。

取組を始めた動機・課題

メンバーは全員神奈川県在住。数十年も暮らしている。
 ⇒ **でも、県内の海岸のごみの実態すらよく知らない**
 ならば、神奈川県海岸線を全て歩いてみよう！
 ⇒ **ごみを拾いながら、プラごみ分布の実態を調査。**
 ドローンも使って、海岸線の様子も撮影。

該当するSDGs目標 （3つまで）



解決に向けた具体策と成果

ごみを分別の上、計量。ごみを見える化。データを分析。
 ⇒ **今後の取り組みを、効率的に実践できる。**
スピード感持って、県内の海岸のごみを処理できる！

取組による定量的な効果

回収したごみの総重量 **3トン超！**
約7割が、半島部や人の入りにくい**岩場・磯場**に集中。

取組のポイント

今後、これらのデータを基に、行政や企業、諸団体と協働。
 ⇒ **海岸美化にみんなで取り組む基礎ができた！**

－子供たちの手で！書道紙リサイクルプロジェクト－ （一般社団法人エコ再生紙振興会）

取組の概要

学校等の授業で出る使用済み書道紙を子供達の手により集め、それらを回収して『未来箋』に再生化、再び授業の中で子供たちの手に還していく資源循環型のリサイクル活動です。校内の書道紙ごみゼロは、各自治体のごみ問題にも貢献し、ものを大切にする啓発にも寄与し、教科書にも掲載される活動に発展し、活動は全国に広まっています。

該当するSDGs目標 (3つまで)



12.つくる責任：使用後の書道紙を全回収。



『未来箋』へ再生！



つかう責任：子供たちが授業で活用



【成果：校内のごみが教材に!!】

4.学校での生きた環境教育の教材にもなる
11.ごみ削減に子供たちが校内で参加する。

取組を始めた動機・課題

古紙リサイクルにおいては、墨のついた書道紙は禁忌品の扱いで、そのほとんどが可燃ごみとなっていました。ごみ削減の現代社会で、書道文化が適応していく為には、書道紙の再生の仕組みが不可欠と考えました。神奈川全域の自治体への提案の停滞が課題です。

解決に向けた具体策と成果

「授業等で練習する書道紙はグレーではダメですか？」と教育機関に投げかけました。すると「環境に配慮したグレーならば可！」の多くの声から一気に広まりました。

取組による定量的な効果

神奈川西部地域1市8町の全小学校で『未来箋』の授業が実現。（実績12年：毎年約3トンのごみ削減と有効活用）

取組のポイント

次代への環境社会に根ざした書道文化の継承が主たる目的でしたが、環境教育の資として評価されています。

DE&I推進のためアンコンシャス・バイアスの冊子作成（SWCC株式会社）

取組の概要

当社は多様な人材が活躍できる土台を作るため、DE&I推進を行っている。**2024年度は特にアンコンシャス・バイアスへの理解と浸透に注力している。**まずは、組織内にあるアンコンシャス・バイアス（無意識の偏見や思い込み）について、社員に知ってもらうため、**ハンドブックを作り、全社員に配布した。**

該当するSDGs目標
(3つまで)



取組を始めた動機・課題

社内の声から、DE&I推進を阻むものとして組織内に根深いアンコンシャス・バイアスがあることが分かったため。例えば「男性は仕事、女性は家事育児」というバイアスは女性活躍を阻むものである。その他、ジェンダーに限らずあらゆるバイアスが誰にでもあり、場合によっては人を傷つける可能性があることを従業員に周知した。

解決に向けた具体策と成果

マンガを交え読みやすいよう工夫した。社内アンケートで77%の人がハンドブックを「良い」と回答し、大変好評だった。全国紙にも取り組みが取り上げられた。

取組による定量的な効果

始めたばかりのため定量的な効果は出ていない。今後はエンゲージメント測定を通じて効果を定点観測する。

取組のポイント

DE&I推進にあたり、制度だけではなく啓発活動を通じて従業員の意識向上・行動変容につなげようとしている点

賞味期限の延長等による食品ロスの削減（エバラ食品工業株式会社）

取組の概要

食品ロスの発生を抑制するため、賞味期限の延長や需要予測に基づく適正な在庫管理、使用期限が迫った原料の共有、返品の削減、フードバンクとの連携などに取り組んでいる。

取組を始めた動機・課題

SDGsへの取り組みとして、**2019年度**に全社の食品ロス実態把握を行った。それまでは食品ロス削減への取り組みを全社で推進するような会議体がなく、部門間連携に課題があった。

該当するSDGs目標 (3つまで)



賞味期限を延長した商品の例



解決に向けた具体策と成果

2019年度に環境部会で食品ロスをテーマに掲げ、各部署と議論を重ね、**全社の長期目標を設定**することができた。

取組による定量的な効果

食品ロス量 **60.9%削減**（2017年度比）
計16アイテムの賞味期限を延長（2023年度）

取組のポイント

全社横断の目標を掲げることで、同じ目標に対して取り組むことができた。

大学生とのコラボを通じた価値共創（エバラ食品工業株式会社）

取組の概要

神奈川県立保健福祉大学の食育サークルとエバラ食品とのコラボレーション。「黄金の味」を使ったレシピを複数考案していただき、同大の在学生による人気投票で**1位となったレシピを学生食堂にて提供**した。読み手が作りやすいレシピ作成のコツやメニュー撮影の方法などを学生に教えることで**双方ともに有益な取り組み**となった。

該当するSDGs目標 (3つまで)



取組を始めた動機・課題

主力商品である「黄金の味」の若い世代への認知拡大が全社ミッションに掲げられていた。その施策として、神奈川県に紹介していただいた大学の食育サークル「シーラボ☆」とコラボし、家庭で手軽に作れる「黄金の味」を使ったレシピを考案してもらった。

解決に向けた具体策と成果

考案レシピのうち投票で1位となったメニューを学生食堂で提供。好評につき8月のオープンキャンパスでも同メニューを提供し「黄金の味」の魅力を広く周知できた。

取組による定量的な効果

学生食堂の提供数 525食（6/1～30）

オープンキャンパスでの提供数 330食（8/3～4）

取組のポイント

レシピ考案で終わらせずメニュー提供をしたことや、学びの機会にすることで双方に有益な取り組みとなった。

段ボールの見直しによる輸送効率の向上（エバラ食品工業株式会社）

取組の概要

商品リニューアルの際、段ボールの強度を高めながら、サイズの**最適化**を図ることで、内部に使用していた補強のための仕切りを無くした。これにより、16%の段ボールコスト削減と25%の輸送効率向上を実現した。

取組を始めた動機・課題

コスト削減につながる施策を検討する中、段ボールのサイズを変更することでパレットへの積み付けを増加させる案が出た。

該当するSDGs目標 (3つまで)



解決に向けた具体策と成果

段ボールの幅を40 mm小さく、奥行きを8mm大きく変更し、パレットの積み付け数を増加させた。段ボールを強い素材に変更し、内部の仕切り板を無くした。

取組による定量的な効果

段ボールのコストを16%削減
輸送効率が25%向上

取組のポイント

輸送効率を考えた商品設計にすることで、CO2排出量の削減に貢献することができた。

ポーション容器の省資源化（エバラ食品工業株式会社）

取組の概要

ポーション容器の**薄肉化**（素材の厚みを薄くすること）により、原料となるプラスチックの使用量を削減。

取組を始めた動機・課題

資源が高騰する中、コスト削減につなげる施策としてポーション容器の原料となるプラスチックの削減案が出た。薄肉化しても輸送中にへこみや破損が生じないように、試作試験や輸送試験を重ねて安全性を担保する必要があった。

該当するSDGs目標 （3つまで）



解決に向けた具体策と成果

40ミリリットルポーション容器の厚さを従来のものから0.1ミリ薄くした。

取組による定量的な効果

プラスチック使用量 年間約14トン削減

取組のポイント

ほんのわずかな仕様変更でも、大きな省資源につなげることができた。

健康経営推進の情報共有・提供の場づくり（大塚製薬株式会社首都圏第二支店）

取組の概要

自社における健康経営取組みおよび神奈川県内活動拠点である支店での具体的な取組みを発信し、自社製品・サービスやノウハウを活用し、県内で行政連携セミナーや中小企業の健康経営優良法人認定取得サービスを展開。また、手軽に活用できる無料のコンテンツや取組みやすい事例の紹介を行い、健康経営に取組む企業増加に貢献している。

該当するSDGs目標 (3つまで)



取組を始めた動機・課題

人々の健康に貢献することを目標に、ライフステージごとの健康課題を捉え、人々の健康の維持・増進のための科学的根拠のある製品・健康情報を多くの方へ届けるため、行政や自治体等さまざまなステークホルダーと連携した活動を進めている。働き世代へは健康経営の切り口でセミナーや企業への情報提供・情報共有を進めてきた。

解決に向けた具体策と成果

健康経営推進には、従業員の健康リテラシー向上や行動変容も必要。企業側の施策、個人が取り入れやすい提案の両面が評価され、行政連携セミナーや個別相談が増加。

取組による定量的な効果

※行政共催の健康経営セミナー2回実施。支援企業の健康経営優良法人認定2024中小規模法人の取得は県内で5社。

取組のポイント

自社では当たり前だと思っていることも企業や業種の違いで、斬新な情報となったり、情報交換でヒントが生まれる。

作る楽しさで製造業の魅力をアピール (大浩グループ－(株)大浩・(株)ネクサス大浩)

取組の概要

廃棄予定の木材や不動態在庫のネジ・線材の切れ端などをリユースした「ネジロボづくり」を企画。子どもや若者を中心としたワークショップで来場者にドライバーやボンドを使い組み立ててもらい、モノづくりの楽しさとSDGsを伝える取り組みを実施している。

*一般社団法人未来教育デザイン研究所と協働

該当するSDGs目標 (3つまで)



取組を始めた動機・課題

製造業は3K（きつい・汚い・危険）のイメージが強く、少子高齢化による影響もあり将来的な人材不足が懸念される。実際に自分でネジロボを組み立てることで、子どもや若者にモノづくりの楽しさや製造に必要な技術や知識にふれてもらうことで、将来の製造業従事者の増加につなげたいと考えている。

解決に向けた具体策と成果

ワークショップ参加者から工具を使って作るのが楽しかったと好評を得ている。ネジ右に回すと締まるといった製造の基礎知識を楽しみながら知ること、製造業に興味を持つ機会が増えると考えている。

取組による定量的な効果

取組を始めたばかりで定量的な効果はまだだが、今後はネジロボで知名度を上げ、入社希望者を増やしていきたい。

取組のポイント

廃材のためその時々でパーツが異なるが、自分だけのオリジナルロボット作れると、メリットとしてとらえている。

神奈川県中小企業診断協会SDGsプロジェクトの取組み (神奈川県中小企業診断協会)

取組の概要

テクニカルショウヨコハマや自主イベント等、他の士業団体、神奈川県等の連携を通じた無料経営相談会、セミナーの実施、HPでの経営お役立ち情報発信による中小企業、小規模事業者、創業希望者に対する経営支援。

取組を始めた動機・課題

神奈川県の経営の専門家の集まった団体として、地域経済を支えている中小企業や小規模事業者、創業希望者の支援をおこなうことが持続的な経済発展につながるため。

該当するSDGs目標 (3つまで)



成功へのガイド役
DX、事業承継、創業支援
まずはご相談下さい！
We are 中小企業診断士

2024 中小企業診断士の日フェスタ
無料経営相談会
11/20(水) 12:00~19:00
（日中・日曜営業中）
新横浜つぎぎ
横浜をこえて下り着入口前

2024年 2月7日(水)~9日(金) 10:00~17:00
出展館9階ページホール 2024年 1月15日(金)・2月16日(金)
第45回工業技術展会場
パシフィコ横浜 展示ホール
C11~13 ブースにて
中小企業診断士による
経営セミナー・経営相談を行います。

製造業のさらなる飛躍を
サポートします

- DX化
- 新市場開拓
- 補助金・融資
- SDGs
- 事業承継
- 人材採用・育成

経営に関するご相談は、
一般社団法人 神奈川県中小企業診断協会

解決に向けた具体策と成果

取組にあたってはHPでの発信、SNSでの発信、連携公共機関等を通じて相談会、HP掲載情報の告知を行い相談会参加者を増やしている。

取組による定量的な効果

相談件数：テクニカルショウヨコハマ44件、中小企業診断士の日フェスタ31件、士業連携相談会3件（2023年実績）

取組のポイント

700人を超える様々な経営に関する専門性をもつ中小企業診断士がいて様々な中小企業の経営課題に対応可能なこと。

セミナー等の啓蒙活動により県内企業の「脱炭素」への取り組みの理解・進展 (神奈川県中小企業診断協会 SDGsプロジェクト・環境チーム)

取組の概要

県内中小企業向けのセミナー・個社支援等を実施し、中小企業の脱炭素・カーボンニュートラルの必要性の理解を促進し、取り組み実践の支援を行う。

取り組みに際しては、かながわSDGsパートナーミーティング、神奈川県脱炭素戦略本部室、各市町村、テクヨコ（以下添付写真）等と連携する。

該当するSDGs目標 (3つまで)



取組を始めた動機・課題

中小企業のSDGsの認知度は9割超と高水準ながら理解をしている企業は50%以下、さらにすでに取り組んでいる企業は20%以下と低水準にあり、2050年のカーボンニュートラル実現に向けて、中小企業に対するいっそうの支援活動が必要と認識するもの。

解決に向けた具体策と成果

まずは「知ってもらうこと」が最重要であり、そのための啓蒙活動としてセミナー・個社支援、協会ホームページ掲載等により県内中小企業に呼びかけを行う。

取組による定量的な効果

「2050年までの脱炭素化」宣言、「かながわ脱炭素チャレンジ中小企業認証」の増加（具体的な社数は別途検討）。

取組のポイント

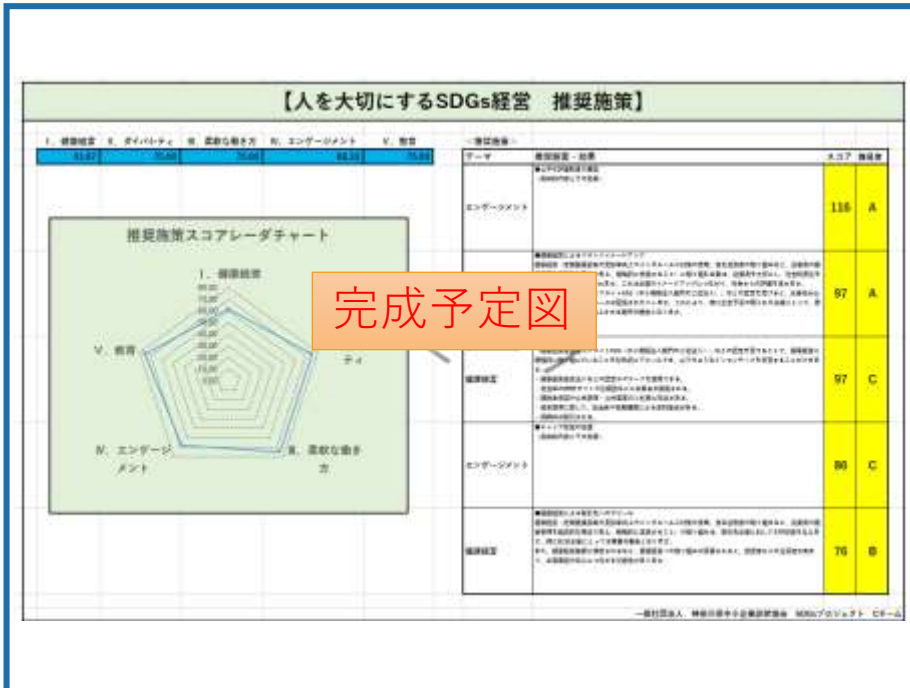
中小企業に関心を持ってもらうため、脱炭素に関する県内先進取組事例をセミナーコンテンツに盛り込む。

中小企業の人と組織に関する様々な課題解決のお手伝い (神奈川県中小企業診断協会・公益推進部・人社会関連チーム)

取組の概要

中小企業の人と組織に関する様々な課題を、SDGsを切り口に「ダイバーシティ」「教育」「健康経営」「エンゲージメント」「柔軟な働きかた」といった視点から分析するとともに、中小企業診断士の知識と経験を活かし、経営全般を支援していきます。

該当するSDGs目標 (3つまで)



取組を始めた動機・課題

多くの中小企業が、**若手従業員の採用難、慢性的な人手不足、人材育成の困難さ**などの課題を抱えています。中小企業が持続的に成長するためには、これらの課題を認識し、適切な対策を講じることが重要です。中小企業診断士は、これらの課題解決のお手伝いが可能です。

解決に向けた具体策と成果

パートナーミーティングやテクヨコ2024など様々なセミナーイベントでの登壇、事例研究、個社支援などを通じて、中小企業の課題解決をお手伝いします。

取組による定量的な効果

プロジェクト3期目の新たな取り組みのため、具体的な成果が表れるのはまだこれからです。

取組のポイント

質問に回答すると、人と組織の課題を解決するヒントを提案してくれるツールを製作しています。

SDGsに貢献する環境教育、地域貢献活動（神奈川工科大学）

取組の概要

SDGsの達成に貢献する大学として、行政（厚木市）、民間と協働して地域包括ケア（フレイル予防）、初等・中等教育支援、ディセントワークの支援、防災・災害ケアの取り組み、中小企業とのSDGs協働研究、かながわSDGsパートナーとの連携環境教育など、地域貢献と環境教育を中心としたSDGs活動

該当するSDGs目標 (3つまで)



取組を始めた動機・課題

SDGsの達成に向けて、大学で培ったカーボンニュートラルに関する知識や、高齢者の健康を支える技術を地域に還元します。環境教育の地域連携などを通じて、環境問題の解決と、誰もが安心して暮らせる社会の実現を目指すことに取り組むため

解決に向けた具体策と成果

厚木市を中心とした周辺地域の方々への防災、健康にかかわる公開講座、イベントの実施。かながわSDGsパートナーと連携した環境教育の実施。

取組による定量的な効果

地域環境教育の実施（3回2023年度）地域防災研修等の実施（11回2023年度）フレイル予防講座実施（3回2023年度）

取組のポイント

地域貢献と他企業との連携を中心とした大学資源の還元、地域に暮らす方の健康・防災に関する不安の減少・解決。

地域に根付いた食文化の伝承と将来世代へ繋ぐ地域社会の連携 (有限会社グリーンフーズあつみ・おつけもの慶)

取組の概要

戦後「多文化共生地域」として発展してきた場所で、古くから続く食文化を将来世代へ伝えながら、地元の企業認知と食を通じた地元の魅力を発信し、地域に根付く雇用の創出とともに地域社会の持続的な発展を目指すことを目的として地元の高校と商品開発に着手。開発した商品を販売することにより収益の一部を学校の設備費として還元。

該当するSDGs目標 (3つまで)



将来世代との共創で、地域に根付く発展を目指した持続的な連携

「プロジェクトK」とは…
川崎高校のK、キム子のK、おつけもの慶のK
※名前は生徒さんが発案

・2023年12月 売上 243,270円
・2024年1月 売上 208,130円
・2024年2月 売上 113,890円
・2024年3月 売上 126,640円
4ヵ月間合計 691,930円

※収益の一部は、学校の設備費、次のプロジェクト開発費(調理学堂下研究費等)へ還元

<活動風景>

取組を始めた動機・課題

当社製造工場及び販売店舗において、インターンシップ受入れで地元高校生の就労体験受入れを開始し、単に体験するだけではなく、若い世代が現在の目線で自ら考案し創り出すことができる場を企業として提供することで、世代を超えた地域社会の発展と連携をサポートしていければと考え、川崎市教育委員会へ打診。

解決に向けた具体策と成果

地元高校生による考案商品コンテスト実施と商品の販売から得る収益の一部を学校の設備費等で還元することを提案し、川崎市立川崎高等学校でプロジェクトが始まる。

取組による定量的な効果

選定された高校生考案商品の販売を2023年12月より2024年12月まで行い、4ヵ月間合計691,300円の売上げを記録。

取組のポイント

2023年度の収益より、学校の設備として調理室へ真空機を還元寄付。2024年度も後輩へ受け継がれながら継続連携。

天井照明のLED化（株式会社コア・エレクトロニックシステム）

取組の概要

本社の天井照明を全てLEDタイプに交換した。（LED交換に当たっては、横浜市の省エネルギー化支援助成金を活用しました。）また、令和6年8月に神奈川県より「かながわ脱炭素チャレンジャー」に認証して頂きました。

該当するSDGs目標 (3つまで)



取組を始めた動機・課題

当社は2011年度より省エネ活動を実施し、平成24年3月に「かながわ地球環境賞 奨励賞」の受賞など経てきたが、令和4年8月に現在地に本社を移転することとなった。LED化の課題は、テナント管理会社に許可を頂けるかどうかでした。

解決に向けた具体策と成果

令和6年5月にテナント管理会社に許可を得て、全部屋のLED化を実施。

取組による定量的な効果

6月から8月までの3か月実績において、前年同時期対比で使用電力量約20%の削減ができています。

取組のポイント

日常の業務を熟しながら、電気工事士メンバーが交換作業に積極的に協力して頂いた。

若手の育成と独立支援で建設業を盛り上げる！（株式会社小池設備）

取組の概要

社内の慢性的人手不足、建設業界での若手人材確保の課題解決に向け、最短6年で独立可能とするプロジェクトを立ちあげた。独立しても弊社のノウハウは全国で活かすことになり、ネットワークを広げられると考えた。経験を積む中で、ここで頑張りたいと心機一転を考える若手も戦力になっている。

該当するSDGs目標 (3つまで)



取組を始めた動機・課題

若手が少ない...どの業種でも抱えている問題ではないでしょうか。特に私たち水道屋の多くが「廃業」に追い込まれています。会社がなくなれば社員、頼りにしていたお客様、地域が困ります。そこに歯止めをかけるべく、若手人材の育成・輩出に注力。全国にネットワークができればと思い、プロジェクトを立ち上げた。

解決に向けた具体策と成果

全国より10名の独立支援希望者を受入れ。仕事やセミナー、勉強会を経て、自身の夢ややりたい姿を見出している。離職率3%と定着率もあがった。

取組による定量的な効果

1名プロジェクト卒業し、地元に戻り家業の後継者となる。神奈川県で頑張りたいと奮起し弊社の戦力として6名在籍。

取組のポイント

人材育成は「コスト」ではなく「投資」。社内全体の意識改革と採用理解へ努めることが経営のボトムアップになる。

日本銀行券（お札）のユニバーサルデザインについて学ぼう！ （独立行政法人国立印刷局小田原工場）

取組の概要

お札の製造工程や、偽造防止技術をスタッフと一緒に学びます。「触って」、「透かして」などを体験し、さらに、**お札のユニバーサルデザイン**を知ることで、目の不自由な方や、外国の方の視点に立って考えます。工場見学に加えて、放課後児童クラブでの出張授業やイベント等にて、クイズなども交えた体験型で、楽しく学習しています！

該当するSDGs目標 （3つまで）



お札のユニバーサルデザイン 例) 識別マーク



従来のお札

新しいお札



出張授業（放課後児童クラブ）の様子

取組を始めた動機・課題

みなさんにお札の特徴を知ってもらうことが、最大の偽造防止となります。また、**お札のユニバーサルデザイン**についても、知ってもらうことでその機能を最大限に発揮することができます。

工場見学の実施に加え、知ってもらう場をどのように広げるかが課題でした。

解決に向けた具体策と成果

知ってもらう場として、工場見学の充実と、こちらから各会場へ出向き機会を提供する出張授業、SDGsイベントへの参加を展開しました。

取組による定量的な効果

工場見学：週2日（4回）、出張授業：16校（延べ480人程度）、SDGsイベント：1回__令和5年度実績

取組のポイント

知ってもらう場を提供していただくにあたって、市や関係団体に相談し、多くのアドバイスをいただきました。

「かながわSDGsパートナー」マッチング企業と連携して農業理解促進 （さがみ農業協同組合）

取組の概要

「かながわSDGsパートナー」で企業間マッチングしている、マルイファミリー海老名のビナウォーク22周年イベントに参加。地元若手農家「JAさがみ海老名市青壮年部」や海老名支店、JA関連企業による7つの企画を通して、消費者に「農畜産物の適正価格購入」「地産地消」「国消国産」などを呼び掛け、農業理解促進を図った。

該当するSDGs目標 (3つまで)



取組を始めた動機・課題

様々なものが値上がりする中、農業生産資材も高騰しているが、農畜産物の価格はなかなか上がりず生産者は苦境に立たされている。食料自給率は38%と低迷し、農業従事者は年6万人のペースで減少。自国の食料を安定して生産するために、農畜産物の適正な価格をみんなで考え、農家を守っていく必要があると知ってもらいたい。

解決に向けた具体策と成果

地元新鮮野菜や切り花、海老名いちごの販売、お酢・お茶の試食・試飲販売、ポスターや動画などの学習資材を使った「国消国産」のPRなど7企画を実施。農産物は完売し、アンケート・メッセージは141件得られた。

取組による定量的な効果

企画数前年比6企画増、企画売上前年比27.3%増

取組のポイント

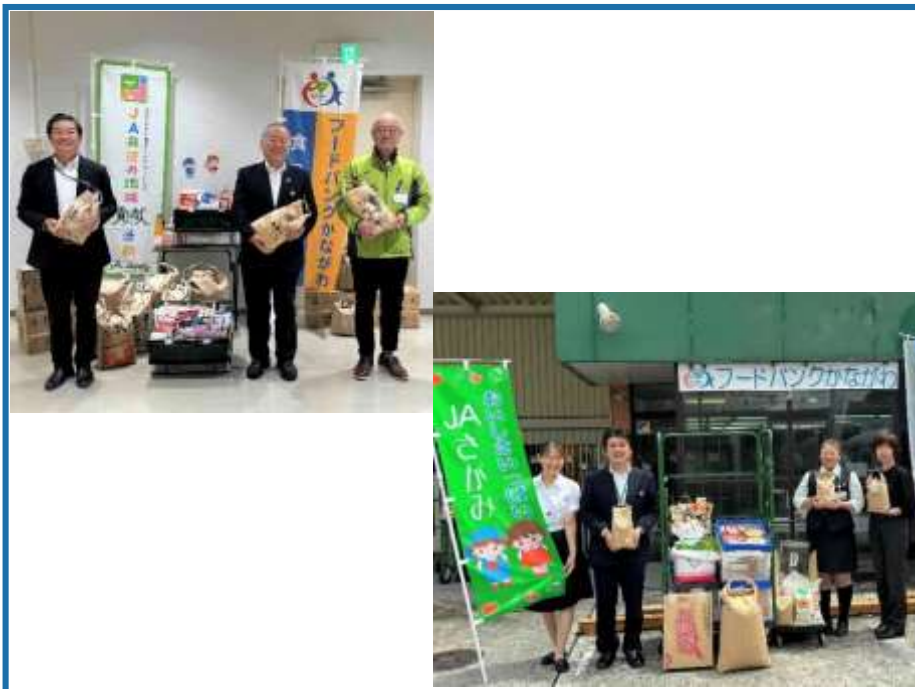
農家への応援メッセージ記入や試食・試飲など、楽しみながら農業理解を深めることができるように工夫した。

フードドライブ活動「お米を中心としたフードドライブ」と役職員向け「米1合プロジェクト（小さな力も集まると大きな力に）」（さがみ農業協同組合）

取組の概要

- 大勢が来場する総代会や事業説明会、支店イベントの会場でフードドライブを実施
- 特に不足している米を集めるために「お米を中心としたフードドライブ」と役職員向け「米1合プロジェクト」（小さな力も集まると大きな力に）を実施

該当するSDGs目標（3つまで）



取組を始めた動機・課題

- 動機 ... 賛助会員として連携している「フードバンクかながわ」での勉強会や県から、コロナ禍以降困窮家庭が増加していることや米が特に不足して困っていることを見聞きし、アクションを起こさなければいけないと実感したため
- 課題 ... フードドライブの周知、食品保管・回収

解決に向けた具体策と成果

59事業所巡回時に直接説明。大規模イベントの担当課に半年前から協力を依頼。開催通知や事前会議、中間報告等で周知。安全に保管する場所を確保。937点1.2 t（1,211kg）を集めた

取組による定量的な効果

実施会場数前年比71会場増、回収食品前年比989.8kg増（そのうちお米は328.2kg増）

取組のポイント

事前の周知。特に困窮者の現状を、実数字を交えて直接説明すること。取組期間中に中間報告をして再依頼をする

SDGs・フードロス削減をテーマにした商品開発（JA横浜）

取組の概要

- ・みつ症という生理障害によって販売できない横浜の梨“浜なし”が「**もったいない**」。
- ・使われていない市内の農地が「**もったいない**」。
- ・そんな職員の思いから、JA横浜オリジナルSDGs商品を開発し新たな「美味しい」が誕生。

該当するSDGs目標 (3つまで)



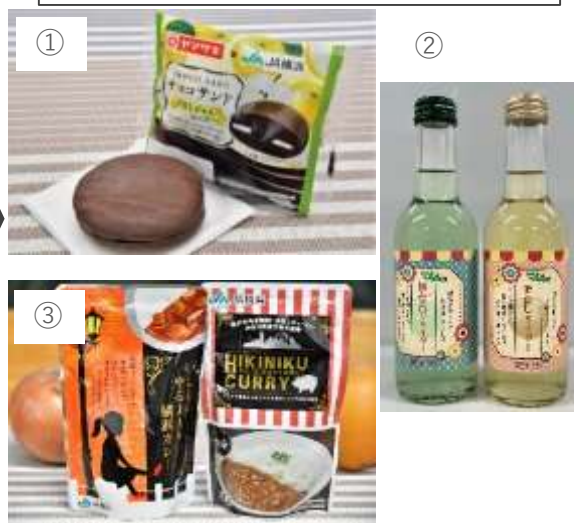
【↓遊休農地でJA職員が栽培】



【↓規格外品】



加工して活用
(JA横浜オリジナルSDGs商品)



取組を始めた動機・課題

- ・遊休農地×規格外品×地産地消といった横浜のストーリーをお客様に届けたい！
- ・企業と連携して、横浜産農畜産物をもっと広めたい！
- ・『農家の「もったいない」を集めました』をコンセプトにJA職員が商品を開発。

解決に向けた具体策と成果

- ・市内等の企業と連携した当JAオリジナルSDGs商品の開発。
- ・①チョコサンド（浜なしジャム）②浜なし/横浜メロンサイダー ③レトルトカレー（市内産玉ねぎ/豚肉）（左記写真）

取組による定量的な効果

- ・約6万個/1,600万円を売り上げることで、農家のもったいないを削減し所得向上につなげている。

取組のポイント

- ・当JAだけでは実現できない、**企業との協働による商品開発**。

生産から販売まで一気通貫した農福連携（JA横浜）

取組の概要

- ・農福連携を進める当JAは、施策の拡充に向けR6.10月から障がい者が農産物の集荷と販売準備を行う「**ノウフクバス**」の運用を開始。
- ・農家のもとへ出発した障がい者チームが農家を巡回し、農産物を集荷しながら自ら販売場所に向かう。

該当するSDGs目標 (3つまで)



農家から農産物を託される農福チームのメンバー
自ら生産した野菜を含めて集荷し、販売場所へ自ら向かう



取組を始めた動機・課題

- ・横浜市は都市型農業として発展しているが、農業の労働力不足が課題で、農家から農福連携に大きな期待がある。
- ・このような背景の中、更に農福連携を進めるため、生産から販売まで一気通貫した施策の実現を目指し展開する。

解決に向けた具体策と成果

- ・今後5年で障がい者100名の雇用を確保する。
- ・農福連携による遊休農地の減少と農産物の付加価値創出による農家の所得増加を目指す。

取組による定量的な効果

- ・運用開始から約2カ月で1,500袋の野菜を運搬し販売。

取組のポイント

- ・当JAの農福連携で働く障がい者は、企業から派遣されている。よって、様々な企業が本施策に参画可能。

みんなで規格外マルシェ（JA横浜）

取組の概要

- ・SDGsに特化した専門直売『やるJAんマルシェ』を開催。
- ・規格外となり市場に出荷できない横浜産農産物を販売することでフードロス削減に取り組む。
- ・企業・行政・協同組合と連携した出店により、「企業の輪」でフードロス削減に取り組む。

該当するSDGs目標 (3つまで)



取組を始めた動機・課題

- ・色やカタチ・大きさが違うだけで、新鮮で美味しい横浜の野菜。
- ・市場や直売所に一般流通できない農産物を集荷して販売することで、**規格外野菜の廃棄量を減らし、地域と生産農家の経済力に還元**する。

解決に向けた具体策と成果

- ・マルシェを通じた横浜産農畜産物の普及拡大や地産地消の促進にも寄与。
- ・来場者のSNS投稿(感想/料理写真など)が農家を応援。

取組による定量的な効果

- ・全24回開催したマルシェは、車(バン)約20台分の農産物の廃棄量を削減。

取組のポイント

- ・食や農に密接ではない企業・団体でも、当JAのやるJAんマルシェを通じてフードロス削減に取り組めること。

健康寿命を延ばす「楽しい居場所と出番」のつかみ方 (任意団体「シニア・ハマ・カレッジ」運営委員会)

取組の概要

100歳時代の高齢者の生涯活躍を支援する活動。
SDGs-3「高齢者福祉支援」-4「社会教育」-5「ジェンダー平等」を実現する「**超高齢社会の地域共生社会づくり**」を目的としている。リタイヤ後の長いセカンドライフの生き方啓発、公開講座提供、地域人材育成、交流実績多。

該当するSDGs目標 (3つまで)



取組を始めた動機・課題

国家資格、学会認定資格を有する代表が発起人。超高齢社会の生涯活躍支援を実現するために平成22年に設立。以来およそ延べ1,000人超の受講者・人材輩出（コロナ前迄）**課題：公的支援制度の廃止・後退。コロナ禍自粛で、地域の様相が激変。本年1月公開再開⇒参加啓発・規模面。**

解決に向けた具体策と成果

「活動助成金応募⇒採択」。複数区の社協、区民活動支援センターに団体再登録承認を得て、活動地域居場所拡大、チラシ配架先拡大を図った。

取組による定量的な効果

公共施設利用団体承認先**12**。研究資金系**活動助成金採択成功**。今年既に公開事業**4回**実施。アンケート結果・**成果大**。

取組のポイント

「公共の活動・明確なSDGs目標」を説明、「**貴方の経験と知識は地域の宝**」と呼びかけ、**地域活動の楽しさ**紹介。

点検商法を未然に防ぐ取り組みで地域社会に貢献（株式会社シュート）

取組の概要

- ・ 建物の高所・屋根にドローンを用いて安全性を確保し、空撮映像をメール・LINEによるデータ提供・共有することで点検の透明性を担保し、お客様へ安心を届けている。
- ・ 県内の一級建築士事務所と業務提携し、ホームインスペクションを展開。建物の内外、全て中立な立場で診断することで、お客様主体の修繕計画策定につなげる。

該当するSDGs目標 (3つまで)



取組を始めた動機・課題

- ・ 屋根の点検商法被害をなくしたいとの思いから、方々で研修を受け2017年ドローン導入。訓練を重ねた上で2018年1月より住宅の屋根点検で運用を始める。
- ・ 業界でのドローン使用例が少なく、ホームインスペクション（住宅診断）を含めた認知度向上・普及につなげることが最大の課題である。

解決に向けた具体策と成果

課題に対し、顧客層へのアプローチ・無償提供から口コミにつながり、専用WEBサイト・地域情報紙・SNSによる発信で利用につなげた結果、お客様満足度が向上。

取組による定量的な効果

売上前年比10%増

取組のポイント

自社の長所を活かし地域社会の問題解決に向け、取り組みを行った。

子どもが楽しい ママのがん検診応援プロジェクト (一般社団法人シュフレ協会)

取組の概要

医師と子育て支援団体が連携し、大切だけど難しい話を子育て支援者目線で伝わりやすい資料に変換。

子どもが楽しめる会場で子どもが楽しく遊んでいる間の時間を有効活用してママの健康チェックとがんについて学ぶ出張1日診療所を開設。

該当するSDGs目標 (3つまで)



取組を始めた動機・課題

出産年齢の高齢化で、乳がんや子宮頸がんの罹患リスクが上昇する時期と子育て優先で自分のことを後回しにしてしまう時期（30代）が合致。この年齢はがんの知識に乏しい傾向があり身体からのサインに気がつかない傾向がある。上記理由から病の発見が遅れ、早期発見したら助かったかもしれない命が失われている状況を改善したく活動を開始。

解決に向けた具体策と成果

子どもが楽しい会場を選定→健康意識が低い方の周知に成功（検診経験なし又は3年以上検診未受診者が8割）その後9割が自発的に検診に行った。又は行く為の具体的な行動を開始。

取組による定量的な効果

健康意識の低い方の誘致に成功。検診の大切さを理解できた方98%。翌年以降自発的な検診受診に繋がった（9割）

取組のポイント

問題意識が同一かつ得意分野が異なる者同士の連携。医師の知識を子育て支援者が対象者に伝わりやすい内容に変換。

医療体験「メディカルキッズ」(学校法人 聖マリアンナ医科大学)

取組の概要

医療体験「メディカルキッズ」は2013年から始めた小中学生向けの医療体験教室。2022年からは対象を小学生に絞り、今年で16回目の開催。今年度は**小学生高学年56名**が参加。**医師、看護師などの医療スタッフ他職員32名**に加え、**医学生や看護学生17名、計49名**で、6種類の体験教室を設置して実施。

該当するSDGs目標 (3つまで)



取組を始めた動機・課題

地域の小学生に医療と健康に興味をもってもらうことを目的に開催。一方的な情報発信にせず、体験型のイベントを目指した。職員だけでなく、世代の近い学生もサポート役に登用し、**2030年までに累計参加者800名**を目標に取組んでいる。

解決に向けた具体策と成果

薬の調剤、車いす、顕微鏡、血液型、蘇生、聴診器づくりと体験教室を6種類に増やして、前年比定員を倍にして開催。学生とも交流でき、医療職への興味が増した様子。

取組による定量的な効果

2024年度終了時点で参加者累計**492名**。アンケート回答者のうち**86%が非常に満足**と回答し子供にも保護者にも好評。

取組のポイント

土曜日半日の開催で、費用も材料数万円程度に抑え、開催側の負担を最小限にして、持続可能なイベントにしている。

ペーパーレスで進化する看護専門学校¹の教育と学校運営 (聖マリアンナ医科大学)

取組の概要

当校では、DXを安価に活用したペーパーレスにより温室効果ガスを削減し、環境負荷軽減に貢献しています。また、紙資源や印刷コストの削減により経費を抑え、運営の効率化も実現。これらの取り組みにより、**持続可能な教育と学校運営を目指しています。**

該当するSDGs目標 (3つまで)



取組を始めた動機・課題

動機は学生に環境保護の重要性を教え、医療現場でも持続可能な資源利用を実践できる看護師を育成するため。また、教職員の事務作業の効率化を図ることで、より質の高い教育に注力できる。ただし、ペーパーレスやデジタルツールの使用に不慣れな人もおり、スムーズな移行を図るためには研修やサポート体制の充実が必要。

解決に向けた具体策と成果

講義資料の電子化及び文書や帳票の自動作成・自動送信など様々な事務作業の効率化と合わせてペーパーレス化を推進。学生にはペーパーレスと環境保護の意識向上を図り、持続可能な資源利用を実践できる看護師の育成を目指した。

取組による定量的な効果

A 4 サイズ換算で1年間で約100万枚以上使用していた紙を約30%削減。それに伴い温室効果ガスも約30%削減を実現。

取組のポイント

自前主義によるコストを抑えたDXにより、温室効果ガス削減、経費削減、業務効率化、SDGs教育の実現が可能。

フードロス&ごみ削減×福祉作業所との連携による無意識のエシカル消費 (地球もわたしも元気になる合同会社)

取組の概要

規格外のバナナと地元牧場の牛乳を使用したバナナミルクを販売するキッチンカー「エコルシェスタンド」では、バナナのカット・計量・冷凍作業を今年から近隣の福祉作業所へ依頼し始めました。バナナミルク飲みたい！という老若男女からの純粋なニーズが、人や社会・環境に配慮した消費行動「倫理的消費(エシカル消費)」に繋がります。

取組を始めた動機・課題

「ゼロウェイスト」をテーマにしたお店を運営していたら、農家さんから規格外の野菜が大量に届いた頃から規格外品のことを知りました。また、お店で扱っているドライフルーツを作っている福祉作業所の方のお話を聞いて、障害者雇用の方たちの賃金の低さも気になっていました。

解決に向けた具体策と成果

規格外品の農産物を農家さんから買い取ることでフードロスとごみの削減に繋がり、バナナのカット・冷凍作業は最低賃金を目安に福祉作業所へ依頼しています。

取組による定量的な効果

規格外品の農産物を1年間で303kg使用しました。これは可食部のみの数字なので、実際は500kgを超えています。

取組のポイント

「規格外品だからお得」ではなく、「美味しいのに規格外品なんだ!」と思わせること。単純作業は依頼すること。

該当するSDGs目標 (3つまで)



街のボランティアサッカーチームが取り組む「地域共創」 (富岡SC)

取組の概要

「サッカー×地域×教育」のコラボレーションによる地域共創活動

- ・子供たちの教育の場、新たな職業への出会い
- ・地域・地元の魅力発見
- ・参加企業同士の新たなコラボの場の提供

該当するSDGs目標 (3つまで)



取組を始めた動機・課題

動機：単なるサッカーチームではなく、「子(己)育てコミュニティ」を目指したい。地域資源の認知と接点作りをしたい。

課題：サッカーチームが地域共創に取り組む理由。参加企業への取り組み理解をどのように得るか

解決に向けた具体策と成果

地域企業も地域貢献の方法を模索していた。結果として参加企業同士のコラボによる新たな取組み、参加企業同士の新たな繋がり、出会いの場の構築ができた。

取組による定量的な効果

団員入団増 (対前年比10名)、自治体やNPOからの地域交流活動への参加要請増加 (前年1件、今年度5件)

取組のポイント

参加団体は無料。安価で地域交流、企業同士のコラボを図ることができ、さらに子供たちへの教育の場も提供できた。

トラダン®で災害時の生活に笑顔をお届ける (株式会社トヨコン)

取組の概要

輸送用の段ボール箱の内材を工夫して、輸送後に変形して遊べる段ボール箱「トラダン®」（トランスフォーム段ボール）を開発。段ボールはリサイクル率が高く、環境にやさしい素材としても広く利用されている。また、小田原市では湘南ベルマーレフットサルクラブ様とC&E締結し、協業してイベント参加などでPR活動を実施している。

該当するSDGs目標 (3つまで)



取組を始めた動機・課題

自社商品の開発に取り組む中で、段ボールの活用で社会課題の解決につながるものはないかという視点で「輸送箱」×「遊び」＝トラダン®を開発した。使い終わったら捨てるのではなく、間に“遊ぶ”が入ることで災害時の避難所生活に笑顔をとというコンセプトで販売へ向けて取り組みを進めている。

解決に向けた具体策と成果

おだわらSDGsパートナーとして、湘南ベルマーレフットサルクラブ様とイベント出展や商品開発など取り組んでいる。また地域企業紹介にもつながっている。

取組による定量的な効果

地域企業連携：2社（2024年実績）

鈴廣かまぼこ様・一燈会様のイベント提供・参加

取組のポイント

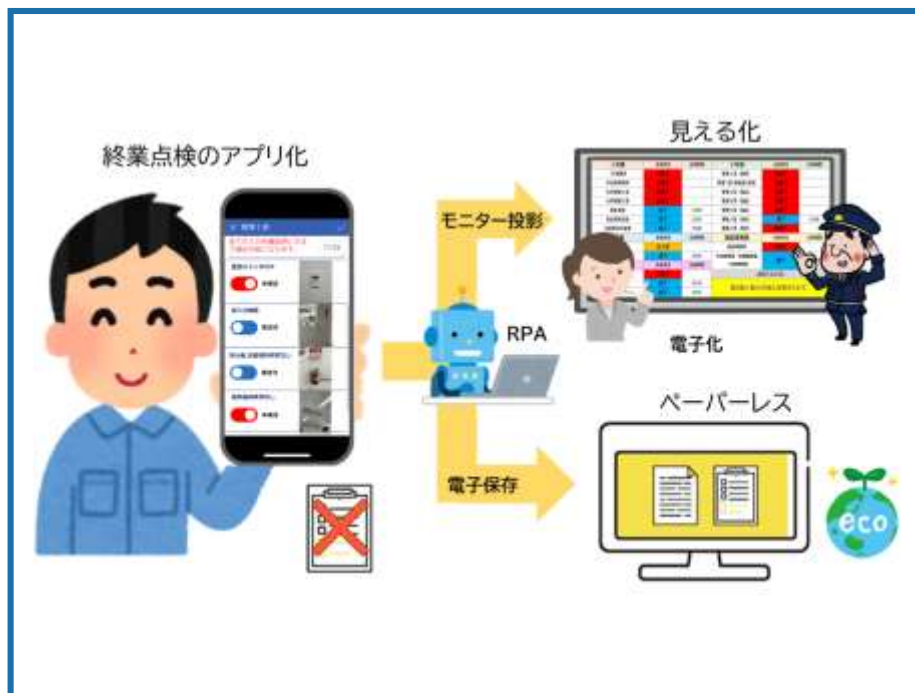
企業同士の強みを活かした取り組みを進めてきたこと。

終業時の火元点検記録をアプリ化：ペーパーレス化&業務効率化 (日本新薬株式会社小田原総合製剤工場)

取組の概要

毎日終業時に行う火元点検について、これまでは紙の記録書で実施していたが点検個所がわかりにくく、記録に時間もかかった。これを内製でアプリ化し点検個所を写真で掲載して、年間で440時間の点検時間削減、4,800枚のペーパーレス化、点検の質向上に繋がった。今後別の事業所にもアプリを水平展開し、更なるペーパーレス化&効率化を進める。

該当するSDGs目標 (3つまで)



取組を始めた動機・課題

毎日終業時に紙の点検記録書で火元点検を実施するが、文字では点検個所がわかりにくく、ペンで記録するのに時間がかかった。また部屋毎に点検記録があるが、20枚程度の紙記録が点検後に守衛と総務課に集まってくるが、点検漏れの部屋があるかをチェックするのが困難で、点検後にすべての記録に確認印を押すのも時間がかかった。

解決に向けた具体策と成果

ローコードアプリを使って内製でiPhone用アプリを開発し、紙からiPhoneアプリに変更した。記録はRPAで社内イントラネットに自動記録され、モニターに可視化される。

取組による定量的な効果

440時間/年の時間削減、4,800枚/年のペーパーレス化、開発費用は無料、点検個所の明確化/可視化で点検の質向上！

取組のポイント

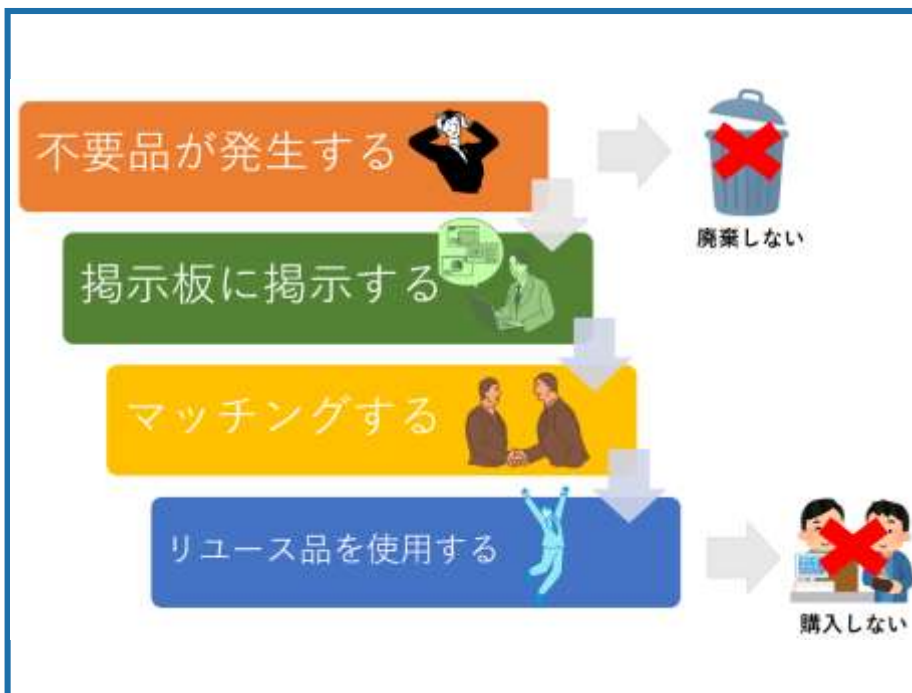
アプリ化に伴って点検個所の写真を掲載し、点検の質向上を繋がった！記録の可視化で、抜け漏れチェックが容易に！

職場と家庭のリユース促進！「すてちゃダメProject」 （日本新薬株式会社小田原総合製剤工場）

取組の概要

各職場で不要となった物品を社内イントラネットに掲載し、欲しい人とマッチングを行う「すてちゃダメProject」を開始し、半年で9件のマッチングし廃棄費用や購入費用の削減、資源の有効活用を実現した。本プロジェクトは多くの人・企業で連携すると効果を拡大できるため、今後リユース促進のため、地場企業との連携を検討したい！

該当するSDGs目標 (3つまで)



取組を始めた動機・課題

特に人事異動時期には人や部署の異動に伴って、キャビネットやパーティション、事務用品など様々な不要物が発生する。まだ利用できるがその部署では不要なため捨てられてしまい、別部署ではその捨てた物品と同じものを新品で購入するケースが散見されたため、「すてちゃダメ！」と思い、リユースプロジェクトを開始した。

解決に向けた具体策と成果

職場で不要物が発生した場合は、社内イントラネットに情報を掲載してマッチングを図る。取り組みを始めて半年で26件の掲載があり、9件がマッチングした。

取組による定量的な効果

- ・ 廃棄処理費用 約3万円削減
- ・ 購入費用 約5万円節約 ※開始して半年間の効果

取組のポイント

特別企画として家庭の不要物を対象とした企画を1週間限定で実施し、7件の掲載があり、内4件がマッチング！

不要となった作業靴のリユース：小田原支援学校でデザイン学習に有効活用 (日本新薬株式会社小田原総合製剤工場)

取組の概要

労働安全の強化のため、従来使用していた普通の作業靴から、安全靴に全面的に切り替えた。それに伴い、**約300足の作業靴の在庫が不要となった**。小田原支援学校に相談したところ、**美術の授業でデザイン学習に活用したい**ということで**300足を寄付**させて頂いた。資源の有効活用（リユース）に加え、子供の学習支援を実現することができた。

該当するSDGs目標 (3つまで)



靴のお届け



寄付した靴
(美術の授業で活用)

取組を始めた動機・課題

約300足もの新品の作業靴が在庫として残ってしまい、捨てるのはもったいなく、**有効活用できる手段がないか**と考えた。**「捨てるしまえば産業廃棄物で処理費用がかかるが、欲しい人が有効活用してくれればそれは資源となる」**と考え、**お金も気持ちも嬉しくなる方法**を探した。

解決に向けた具体策と成果

従来から障がい者雇用で連携している小田原支援学校に連絡して、作業靴の状態や数量を伝え、**リユースの方法**を相談し、**良い活用方法を見つけることができた**。

取組による定量的な効果

- ・日本新薬：廃棄処理費用 **約3万円削減**
- ・小田原支援学校：靴の購入代金 **約80万円節約**

取組のポイント

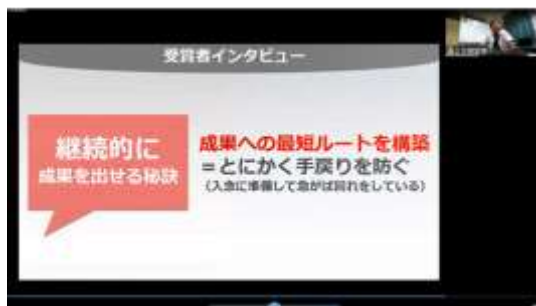
「捨てる神あれば拾う神あり」という諺のように、諦めずに**人的ネットワーク**を活用して相談することがポイント！

社内表彰制度（富士水質管理株式会社）

取組の概要

社員の才能と情熱を解き放つをテーマに、社内表彰制度を実施。毎月ごとに多数の項目で表彰を行っている。直接的な売上を作らない社員にも、スポットライトが当たるような**定性面も含めた表彰項目を設計**。縁の下の力持ちとして活躍している職種にも“誉れ”による意欲向上を行っている。

該当する
SDGs目標
(3つまで)



取組を始めた動機・課題

営業成績など定量面だけでの評価では無く、直接的な売上を作らない社員にも、スポットライトが当たるような取り組みが出来ていなかった。そこで、**定性面も含めた表彰項目を設計**。縁の下の力持ちとして活躍している職種にも“誉れ”による意欲向上を行った。

解決に向けた具体策と成果

周囲からの表彰者の投票フォームを作成して、全社員参加型に。毎月という頻度は多いようにも見えるが、表彰されることによって「**自身の強みに気づくキッカケ作り**」をなるべく多く設ける事も狙い。

取組による定量的な効果

社員のモチベーション向上にも繋がり、離職率が半減した。

取組のポイント

表彰者には受賞理由やノウハウを体系化することを求め、全社に共有をすることで受賞だけで終わらせず「**成功事例の横展開**」も実施。

中小企業のSDGs経営導入を支援（ベイヒルズ税理士法人）

取組の概要

中小企業がSDGs経営を導入するための支援サービス。

1. SDGs経営診断で自社の強みや改善すべき課題を把握
2. 自社のSDGsの取組みを宣言する文書を作成し、自社のホームページで公開
3. 公的な認証を取得、SDGsを具体的に進める準備を整える

取組を始めた動機・課題

弊社が顧問している中小企業にSDGs経営の導入を提案した際、多くの企業から具体的な導入の方法が分からないとの声を頂戴した。そのため、先行してSDGsを導入した弊社の経験とSDGコンパスなどを活用して、簡易でわかりやすい支援サービスを開発した。SDGsの基本的な考え方や用語を理解してもらうことが課題となっている。

該当するSDGs目標
(3つまで)



解決に向けた具体策と成果

用語の解説シートを追加すること、内容を具体的かつ分かりやすくすることで、サービスの理解が促進される改良を実施した。

取組による定量的な効果

3年間で22社に本サービスを利用していただき、ほぼすべての会社が公的認証を取得し、SDGs経営を開始した。

取組のポイント

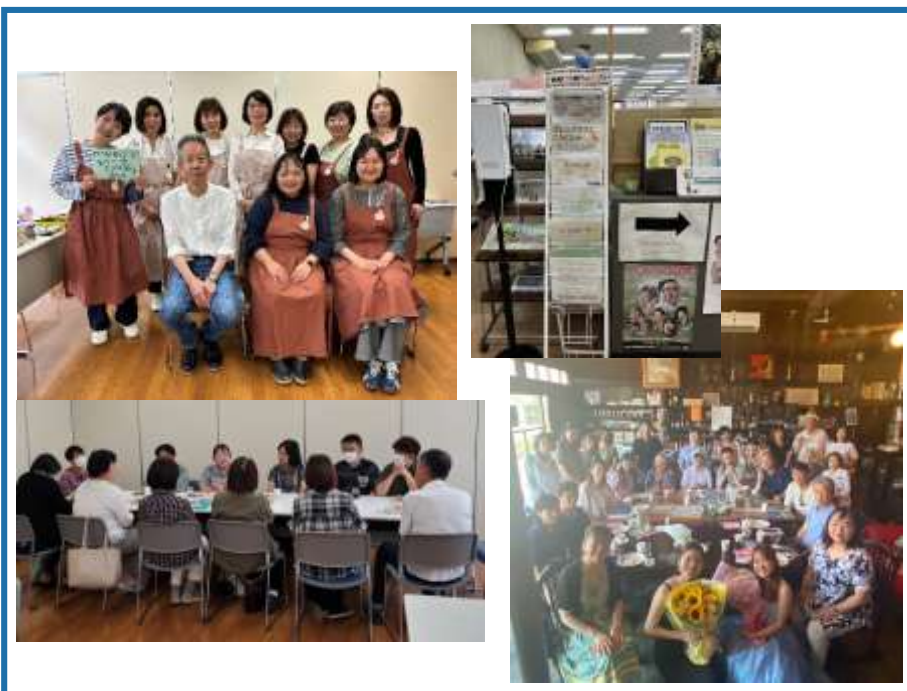
サービスを提供する度に大小の改良を行い、使い易くした。

あらゆるケアする人をケアする「ケアラー支援」(MilkyWay)

取組の概要

福祉等の知識や様々な経験を活かし、あらゆるケアする人をケアする「ケアラー支援」を行う。本音と弱音が言える場づくりとしてのケアラースカフェLuanaや講演会等を開催することにより、ケアラーは自己認識しサポートを求められることができ、一般の方はケアラーの理解を深められる。誰もが誰かをケアできるまちづくりを行っていく。

該当するSDGs目標 (3つまで)



取組を始めた動機・課題

少子高齢化、核家族化が進む中、課題は複雑化している。障がい者や高齢者など当事者への支援はあるが、ケアする側の支援はなく疲弊・孤立する姿がある。福祉等の人手不足は深刻で介護崩壊の危機も耳にする。今後、ケアする人達の負担はさらに大きくなり、ヤングケアラーや介護離職などの課題が常態化することが危惧される。

解決に向けた具体策と成果

ケアラースカフェを月1回開催。ケアラーに関する講演会、映画上映会等を行う。チラシや広報誌等を公共機関、病院、店舗等に配架。支援団体のネットワークづくりを行いコンサートやバザーでは幅広い層にケアラー支援を伝えている。

取組による定量的な効果

ケアラースカフェの横の繋がりとして連携2箇所。ケアラースカフェLuanaで会員を含め11月迄に延べ98名の参加実績！

取組のポイント

ヤングやビジネスなどのケアラーのほか、ケアの仕事をする人や従業員のケアが必要とされる責任者等も含まれる。

イベントの飲食容器をリユース食器・和器にしてごみ削減（NPO法人游風）

取組の概要

年2回開催される鎌人いち場で飲食容器を使い捨てでないものに限定して開催することで**飲食容器ごみ**を約2500個削減し、**和器**655個利用し、日本の森林資源を活用できた。

該当するSDGs目標 (3つまで)



取組を始めた動機・課題

イベントで発生するごみの大半は、飲食容器ごみです。使い捨ての紙やプラスチックの飲食容器を替えることでごみの削減、プラ容器の削減、森林資源の活用ができるため。使い捨て食器より費用が掛かること。

解決に向けた具体策と成果

イベント全体で**ごみゼロ**に取り組む姿勢を来場者にアピールし、来場者に容器代金を支払うかMy食器の持参を呼びかける。

取組による定量的な効果

使い捨て容器を約2500個削減。和器の655個の利用により日本の杉の有効活用ができた

取組のポイント

イベント主催の実行委員会と一体となり、ごみゼロの削減に取り組み、イベントの来場者、出展者と意識を共有した

地域住民及び商店と連携して行う地域活性化イベント (株式会社ライブフュージョンホールディングス)

取組の概要

地元企業・団体と連携して、街の活性化を図る為に、2023年10月14日に「さくら並木まつり」を開催。弊社はグループの垣根を越えて、スノードーム制作ブース・地域の方が健康になるようストレッチ講座・障がい者就労支援として駄菓子屋を出店。次は2025年4月12日を予定。

取組を始めた動機・課題

商店街が解散し、スーパーも閉店してしまった為、活気がなくなってしまった街。
なんとかもう一度活気がある街にと、弊社が声掛けをし、2017年より「さくら並木まつり」を開催する。

該当するSDGs目標 (3つまで)



解決に向けた具体策と成果

弊社だけでは運営が難しいので、周りの商店や地域の団体・住民と協力して開催。

取組による定量的な効果

1000人が集まる規模のお祭りとなり、海老名市長も参加。

取組のポイント

一社一グループじゃできないけど、みんなで協力すれば実現が可能という事を実感。